

『首尾一貫する大切さ』 ～ 未来への Vision ～

2023 年 8 月 25 日 病理組織診断の業務を終えて、恵泉女学園中学・高等学校（世田谷区）に赴いた。【河井道の Mission → 現在の現状における Concept → 未来への Vision】をさりげなく触れた。大変貴重な時であった。

その後、ブログ『楕円形の心』を編集して頂いている樫本稔氏と東久留米ジョナサンで面談の時を持った。新刊『教養を深め、時代を読む ～ 楕円形の心 ～』（2023 年 8 月 31 日発行、to be 出版）を持参して頂いた（画像）。341 回目に達したブログ『楕円形の心』から 100 選し、表紙のイラスト（画像）は娘様が書いて下さった。大いに感動した。ただただ感謝である。

8 月 26 日の午前中は、早稲田大学エクステンションセンターでの【ジャンル 人間の探求『がんと生きる哲学 医師との対話を通して「がん」と生きる方法を考える』】に赴いた。テキストは『がん細胞から学んだ生き方「ほっとけ 気にするな」のがん哲学』（へるす出版）（画像）の『首尾一貫する大切さ』、【新渡戸稲造の『桃太郎』】、『人生は開いた扇』の箇所を音読しながら進めた。多数の質問もあり、大変有意義な充実した時であった。

午後は、筆者が代表を務める『南原繁研究会』の『第 12 回夏期研究発表会』（今井館聖書講堂に於いて）に出席した。

近藤信和：南原繁から見た内村鑑三の思想とキリスト教信仰について

秋間 修：朝河貫一（1873-1948）と『日本の禍機』の紹介

村松 晋：南原繁「日本的キリスト教」再考

山口周三：南原先生の時事論文について

鈴木英雄：東大教養学部の教育

塩川礼佳：南原繁の宗教論——哲学的観点から——

稲垣久和：カントの「神の国」論の現代的理解——南原とハーバーマス

大変、『純度の高い専門性のある講演』であった。筆者は、閉会挨拶の機会が与えられ、8 月 10 日に発行された昨年（2022 年）の【第 19 回南原繁シンポジウムの記念本『日本の近現代史における南原繁』】（横濱大氣堂発行）を紹介した。

Nobe

教養を深め、時代を読む
〜楯岡形の心〜



教養を深め、時代を読む
〜楯岡形の心〜

教養を深め、 時代を読む

楯岡形の心

樋野興夫

順天堂大学名誉教授
新渡戸稲造記念センター長
恵泉女学園理事



樋野興夫

TOBE出版

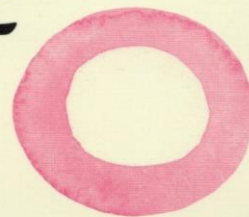
「ほっとけ 気にするな」のがん哲学

がん細胞 から学んだ 生き方

「ほっとけ 気にするな」の
がん哲学

樋野興夫

順天堂大学名誉教授
新渡戸稲造記念センター長
恵泉女学園理事



がん細胞で起こることは、 人間社会でも起こる

病理医として顕微鏡でがん細胞を覗いてきた筆者が、ミクロの世界の生命現象と人間社会というマクロの世界を考える新しい領域として「がん哲学」を提唱、医療と患者の隙間を埋めるべく「がん哲学外来」を開設した。メディカルカフェも全国に展開され、患者と家族の交流の場となっている。

へるす出版

